

# 群馬大学公開講座「手話で学ぼう者学」

---

2019年2月16日（土）開催

# アイデンティティ再構築から考える『ろう・難聴者のこころの健康』

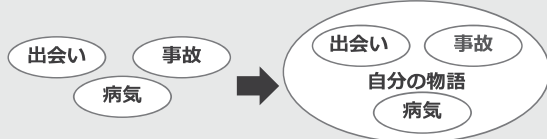
甲斐 更紗  
Sarasa KAI

## 今日のストーリー

- (1) 物語とは？
- (2) アイデンティティとは？
- (3) ろう・難聴とは？
- (4) リカバリーから見たそれぞれの物語
- (5) アイデンティティ再構築とこころの健康

## 物語とは？

- ・自分の物語 過去・現在・未来
- ・エピソードが連なって自分の物語が創られる (上田,2006)



## アイデンティティとは？

### 自我同一性 (Erikson,1950)

「私は、私であって、私以外の他者とは異なる」といった存在である。

### 集団的同一性 (鍾・山本・宮下,1984)

個人にとって自分の支えとし、準拠枠としている集団 (民族・国家・仲間など) との内面的な連帯感および帰属意識にある。

### 文化的アイデンティティ (渡辺,1995)

自分自身がある文化に所属しているという感覚、あるいは意識である。

## アイデンティティとは？

発達段階	E.H.Eriksonの発達課題
乳児期	信頼 対 不信
幼児期	自律性 対 恥、疑惑
就学前期	自発性 対 罪悪感
学童期	勤労性 対 劣等感
思春・青年期	同一性確立 対 同一性拡散
成人期	親密さ 対 孤独
中年期	生殖性 対 停滞
老人期	統合 対 絶望

主体性の再構成/  
主体性の確立

## 障害後の心理的回復過程ステージ理論 (Nancy, C., 1961)

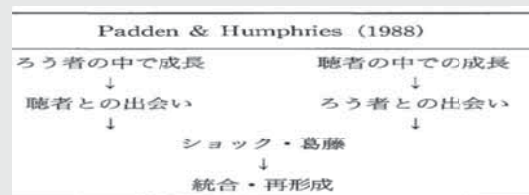


## 病理的視点と社会・文化的視点



Baker, C & Cokely, D (1980)

## うまれたときから「ろう者である」成長の過程で「ろう者になる」

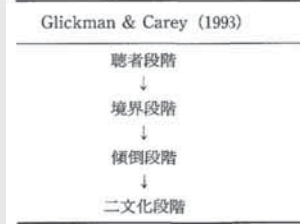


## Erikson理論の視点

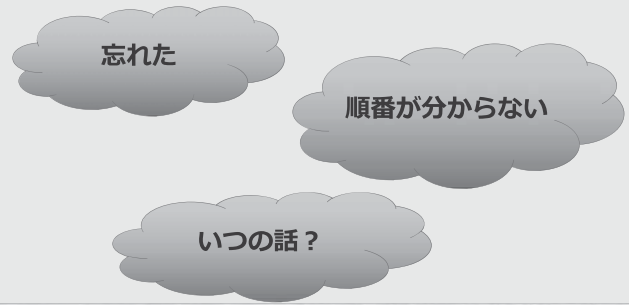
- ①聴覚障害者の世界のこもり一時的に健聴者の世界とのあらゆる接触を排除しようとする青年
- ②逆に健聴者の世界に生きるために聴覚障害者との関わりを拒む青年
- ③障害を受容し多様な世界との関係をもつ青年

Schlesinger&Meadow(1972)

## 文化的民族的アイデンティティの視点



Glickman.N.S.&Carey.J.C.(1993)



## 高齢ろうあ者である手話話者とホームサイン (Goldin-Meadow & Mylander, 1984) 話者

### ・当日提示

経験エピソード+感情エピソード

経験の再現

甲斐 (2013, 2014, 2015)

## 思春期・青年期における「聞こえない」ことへの思い (甲斐・鳥越, 2006)

Table3 学年の因子得点平均値(標準偏差)と分散分析結果

	1年 15-16歳 n=147	2年 16-17歳 n=121	3年 17-18歳 n=105	F値
聞こえないことの積極的受容(F1)	-.0094(.858)	.0089(.812)	.0029(.826)	1.713
聞こえないことに対する抵抗と葛藤(F2)	.0029(.847)	.0015(.786)	-.0059(.823)	.395
聞こえる人に対する不安(F3)	.0071(.879)	-.0005(.844)	-.0094(.859)	1.133
聞こえることに対する傾倒(F4)	.1493(.795)	.0022(.744)	-.2354(.827)	7.372*
聞こえない人たちへの傾倒(F5)	.1234(.753)	-.1036(.741)	-.0053(.791)	3.321*

\*p<.05

## ろう・難聴学生の精神的健康

表3 大学別にみたGHQ30の下位得点の平均値

	TCT群	GU群	SGU群	Fテスト
一般的疾患傾向	2.13±1.36	1.64±1.50	1.75±1.36	n.s.
身体的症状	1.77±1.54	0.67±1.09	1.37±1.26	13.805**
睡眠障害	2.02±1.30	1.29±1.53	1.67±1.28	4.649*
社会的活動障害	1.02±1.31	1.02±1.33	0.86±1.20	n.s.
不安と気分変動	2.40±1.74	1.29±1.59	2.23±1.70	10.092**
希死念慮とうつ傾向	0.69±1.33	0.86±1.31	1.23±1.70	n.s.

\*\*p<.01, \*p<.05

滝沢 (2002)

## リカバリー (回復)

「私」があなたに語る

自己物語の再編集

人間関係の歪みの修正

アタマ

「その次は? (and then) 」  
「それはどうして? (why) 」

(Forster, 1927)

虐待を受けた子どもの心

14

## 臨床で出会った軽度・中等度難聴者の物語の一例

### ・当日提示

## 臨床で出会った一側性難聴者の物語の一例

- ・音の方向性が分からない (岡野・原島・堅田, 2009)
- ・当日提示

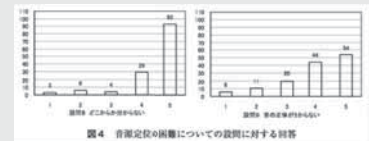


図4 音源定位の困難についての設問に対する回答



## 臨床で出会った人工内耳装用児者の物語の一例

・当日提示



・人工内耳そのものにはそれほど大きな意味はない  
(荒木,2013)

17

## アイデンティティの再構築とこころの健康

物語の性質が否定的なものから「肯定的なものを含めるもの」へ変化する

こころの健康もリカバリーしていく

私たちは何をすべきなのか？

18

「先天性盲ろう者がファンタジーを理解するためには？」

筑波技術大学大学院 技術科学研究科 森 敦史

2018年2月16日（土）

## 1. 森敦史について

### ①自己紹介

障害の状況：先天性（生まれつき）盲ろう者。

視覚障害は明るさがわかる程度⇒点字使用。

聴覚障害は補聴器装用にて、大きな声や音はわかるが、声の判別や発話はできない。

コミュニケーション方法：触手話（メイン）・50音式指文字・指点字・50音ボードetc

在籍校：筑波技術大学（茨城県）大学院 技術科学研究科情報アクセシビリティ専攻

### ②生い立ち

岐阜県出身（1991年）

難聴児通園施設「みやこ園」（3歳～）→言葉（手話やサイン）と出会う。

岐阜ろう学校（小1～小4）→手話を中心に学ぶ。

筑波大学附属盲学校（視覚特別支援学校）（小5～）→日本語の読み書きを中心に学ぶ  
ルーテル学院大学（東京都）の社会福祉学科に入学（2011年）

筑波技術大学大学院技術科学研究科情報アクセシビリティ専攻入学（2017年～）

## 2. 盲ろう者とは（基本）

### ①盲ろう者とは

盲ろう者とは視覚障害と聴覚障害の両方を併せ有する火のことを言います。

全国には1万4000人いると言われていたが、全国盲ろう者協会で把握している盲ろう者は900人程度となっています。

### ②盲ろう者の種類

盲ろう者と言っても、人によって障害の状態等が異なります。

主に「全盲ろう」、「弱視ろう」、「盲難聴」、「弱視難聴」の4種類に分類されます。

また先天性か後天性（中途）かの違いもあります。

そのため盲ろう者の生活状態やコミュニケーション方法は人によって異なります。

### ③コミュニケーション方法

盲ろう者のコミュニケーション方法はいくつかあります。

自分の場合は、触手話・指文字・指点字・50音ボード等を使用しています。

上記以外に、手のひら書きなどの方法を使用する盲ろう者もいます。

また、難聴の場合音声を用いたコミュニケーション方法を使用する場合もあります。

弱視の場合は、接近手話（弱視手話）などが用いられます。

### 3、先天性盲ろう者がファンタジーを理解するためには？

#### ①卒業論文の執筆について

ルーテル学院大学在学時に卒業論文として…

タイトル：先天性盲ろう児におけるファンタジー理解の困難と理解に至るプロセス

副タイトル：「支援者側の援助に焦点をあてて」

を執筆いたしました。

詳細については、別紙（卒業論文報告会での配布資料）をご参照ください。

#### ②卒論執筆に当たっての課題

まず卒業論文を執筆するにあたり、以下のように課題と大学側からの条件があったことをご理解いただいた上で、本日のお話しを進めさせていただきます。

- ①自身を研究対象者として扱うという特殊な研究であること。
- ②研究方法についての課題。（客観性の担保と妥当性）
- ③専攻が社会福祉学科であるということ。（教育と福祉との関連付け）

以上のような課題があったため、卒論執筆に当たっては、自身に関する記録や関係者へのインタビューをベースに、できるだけ当事者である自身の記憶や回想を取り入れるように工夫をしたつもりです。

しかし、自分や皆様にとっての理想、すなわち皆様にとっての「知りたい部分」である「当事者としての視点」を十分に取り入れることができなかつたことは、やむを得ないことであり、反省すべき点でもあります。

#### ③先天性盲ろう者にとって困難なこととは？

前述した執筆における反省を踏まえ、本日は別紙に触れつつ、卒論では書けなかつたこと、さらには卒論の執筆を通して気がついたことを中心にお話しさせていただきます。

まず前提として、盲ろう者にとっては、大きく3つの困難があると言われていています。

- ①コミュニケーションの困難
- ②情報入手の困難
- ③移動の困難

すなわち…

「コミュニケーション」の方法を獲得しなければ、情報を入手することが困難です。さらに「情報入手」が困難なため、自ら「移動」を含めた活動を行うことができません。

健常者はテレビや絵本を見聞きし、自然に「ファンタジーの理解」、すなわち空想の物語などへの理解に至ることができます。

しかし盲ろう児はテレビや絵本を見聞きすることができません。

また日常的にテレビや絵本に触れなければ、空想の物語を理解することができません。

そのため単に「言葉」を教える作業をするだけでなく、上記の3つの困難を同時に克服しなければなりません。

#### ④先天性盲ろう児の教育に必要なこととは？

前述した前提を踏まえた上で、卒論では盲ろう児がファンタジーの理解に至るためには、以下のような配慮が必要であることを明らかにしました。

①とにかくたくさん経験させること。⇒体験させる、触れさせる、確かめさせる機会をできるだけ取り入れる。

②コミュニケーションの機会を確保すること⇒「意図的に」日本語に触れる機会とコミュニケーションをする場面の提供をする。また、日常生活の中で新しい言葉や表現があれば、その都度教えること。

③本人のニーズや状態に合わせた教育や支援をすること⇒新しいことを教える際には、本人の経験や獲得した語彙と関連づけるとあらゆることへの理解がしやすくなる（概念形成、ファンタジーの理解など）。

※それを焦らずにやることが重要です。

したがって…盲ろう児と一緒に行動する中で、「危ないから!」「できないだろうから!」と決めつけずに、健常児と接するときと同等、あるいはそれ以上に、盲ろう児にも、「できる」ことや「してもらいたい」ことを経験させる（やらせる）というようなことも、盲ろう児に対する支援のポイントだと言えます。

#### 4. 自身の経験を通して

##### ①ファンタジーの理解に至るための条件である「経験」とは…

前述したように、ファンタジーの理解に至るためには、いくつかの条件と配慮が相互に作用している必要があると考えられます。

その中でも特に「経験」は盲ろう児にとって最も重要なポイントなのではないだろうかと考えています。

実際にファンタジーの理解に至るまでに、様々な出来事があったことは事実であり、自身もたくさんの経験をしたことを記憶しています。

##### ②ファンタジー理解に至るまでの主な出来事（自身の記憶より）

☆もっとも記憶に残る小学生時代の出来事を時系列にまとめました。

###### A. みやこ園時代（就学前まで）

- ・日常生活の中での経験と言葉の獲得⇒「洗濯をともにする」等

###### B. 岐阜ろう学校時代（小1—小4）

- ・空想の物語などは本当に存在していると思っていた
- ・「嘘」と「本当のこと」の区別ができなかった⇒先生の冗談をそのまま受け止めていた
- ・それでも自分は言い訳をしようとしていた⇒宿題を忘れたときの対応
- ・ハリーポッターの物語は比較的ストーリーとしての理解がしやすかった⇒不思議と疑問

- ・その間には「海に行く」「お墓に触る」などを経験

### C. 附属盲学校時代（小5—小6）

- ・たくさんの日本語に触れながらの経験の積み重ねと経験の拡充
- ・メールの使用開始⇒人が運ぶ手紙と違った経験
- ・大人が子供向けに話すことへの疑問⇒赤ちゃん、サンタクロースなど
- ・「夢」という言葉を知る⇒今までに思っていたこと
- ・空想の世界と現実の世界の区別が難しい物語への反応（改めてのハリーポッター）
- ・読書の拡大
- ・抽象的な言葉の理解⇒気持ちなど

### 5. まとめ（卒論での結論）

これまでの卒論での過程追跡から考察すると、ファンタジーの理解に至ることができたことには、次のような要因（要素）と条件があったと考えられます。

#### ①ファンタジー理解に至るまでの要因（要素）

- ・人材⇒A児には多くの指導者・支援者と、前向きな家族が存在し、それらが新しい人との関わりを重視した事。
- ・時間的配慮⇒時間をかけて一からの指導と、繰り返すという地道な支援が計画的に行われた事。
- ・学習機会の確保⇒体験する・触る・学ぶなどの機会を多く導入し、家庭・放課後支援などでもその機会が確保された事。
- ・興味と関心⇒A児が興味・関心を示した瞬時を見逃さず、言葉の獲得・概念形成と結びつけていく取り組みが、一貫して行われた事。
- ・情報保障（提供）⇒A児の獲得した語彙を活用し、周囲の状況説明や情報を支援側が提供した事。
- ・適切な回答⇒A児からの質問・疑問にできるだけ答え続ける。その際、A児の発言に不足する部分を適切に補填する指導が行われていた事。
- ・共通目標の設定と情報共有⇒指導者・養育者・支援者との連携がとられ、共通目標の設定・情報の共有がなされた事。

以上が要因（要素）として考察できました。

#### ②ファンタジー理解に至る条件

またA児に指導や支援をするに当たっては、指導者・支援者・養育者によって、次の3つの条件に重点がおかれたことも過程追跡で検証できました。

これらは相互に作用しています。

- ・経験の積み重ね⇒体験させる、触れさせる、確かめさせるなどの機会をできるだけ多く取り入れ、感情面での経験も重視する事が条件になる。
- ・言葉の獲得⇒日本語に触れる機会とコミュニケーションをする場面の提供、新しい言葉や表現を教えるなど、国語の学習の中で意図的な取り組みが条件になる。



・概念の形成⇒A児の経験や獲得した語彙を活用して、抽象的概念の説明と、現実との関連付けが条件となる。

### ③まとめ

結論として前述のような要因（要素）と条件が揃ったことから、A児は次のように成果を得ることができたと言えます。

・興味・関心による広がり⇒経験の積み重ねによって生じた興味・関心を示すような場面と結び付けるように取り組みが行われたことによって、A児はあらゆることに興味や関心を示すようになった。

・理解の深まり⇒興味・関心の広がりによって、A児は興味や関心のあることに対し、「質問する」「確認する（確かめる）」、「調べる」などといったことに積極的になり、結果としてあらゆる理解が深まった。

・理解の深まりによる興味・関心の広がり⇒あらゆる理解が深まることで、疑問や不思議が沸き起こり、他にも興味を示すようになった。

以上のような成果が積み重ねられることによって、曖昧なものが確実なものとなり、A児の概念は膨らんでいくという図式が出来上がりました。また抜け落ちていたファンタジーの理解も果たせたとと言えます。

さらにこのような要因と条件が揃う事で、A児は成果を積み重ねながら、次のような好循環が発生させていたと考察しました。

・興味・関心の広がり⇒疑問・不思議が沸き起こる⇒「質問」「確認」「調べる」⇒理解の深まり⇒さらに興味と関心は広がる⇒新たな疑問・不思議が沸き起こる⇒次なる「質問」「確認」「調べる」⇒より深い理解の深まり⇒新たな興味・関心の広がり

このような経過で、A児はファンタジーの理解に至り、物語のみならず抽象的な理解も加速していく事になったことが、自身の卒業研究によって明らかになりました。

## 6. 今後の予定

日本語の獲得とファンタジーの理解には、教育現場（学校）での教育に限らず、ICT技術の活用が大きく影響していると考えています。

実際に自身も早い段階からパソコンなどを使用しており、メールやインターネットを通して、「助詞」や「敬語」などの日本語での使い方を身につけながらファンタジーの理解を広げたことは、事実なのかも知れません。

今後は自身がICT技術を活用し、日本語の獲得やファンタジーの理解に影響を及ぼしたと言う成果を生かしつつ、盲ろう児の教育や情報保障へのICTの活用の可能性について研究をしていきたいと考えています。

## 7. お問い合わせ先

希望する方には郵送または手渡しにて卒業論文を提供いたします。

紙媒体の他、視覚に障害がある方等にはテキストデータをお送りすることができます。

卒業論文の送付をご希望される方は、下記のメールアドレス宛に「お名前・住所・希望部数・テキストデータの有無」をお知らせください。

印刷等のためにお時間をいただくこともあるかも知れませんが、ご了承ください。

お問い合わせ先：atsushi-mori@ip.mirai.ne.jp

ご清聴ありがとうございました！

群馬大学公開講座「手話で学ぶろう者学」講演別紙参考資料

卒業論文報告会（2016/10/05）

先天性盲ろう児におけるファンタジー理解の困難と理解にいたるプロセス - 支援者側の援助に焦点をあてて -

1. 学生氏名：ルーテル学院大学 総合人間学部 社会福祉学科 森敦史
2. 指導教員氏名：ルーテル学院大学 総合人間学部 社会福祉学科 西原雄次郎教授
3. 卒業論文題名：先天性盲ろう児におけるファンタジー理解の困難と理解にいたるプロセス - 支援者

側の援助に焦点をあてて -

4. 卒業論文の構成（目次）：

はじめに

第1章 本論文の目的・意義、研究方法と語句の定義

第1節 本論文の目的とリサーチクエスション

第2節 本論文の意義

第3節 研究方法

第4節 語句の定義

第2章 先天性盲ろう児が直面する本質的な困難

第1節 先天性盲ろう児のある日の行動から

第2節 4つの側面からの考察

第3章 言語獲得と現実理解までの過程追跡

第1節 記録とインタビュー調査

第2節 誕生と乳児期のA児

第3節 言語的コミュニケーションの獲得

第4節 書字言語としての文字（点字）の獲得

第5節 現実の理解からファンタジーの理解へ

第4章 ファンタジーの理解に至るまでの過程追跡

第1節 ファンタジーの理解と現実の抽象的理解へ移行するために必要な条件

第2節 ファンタジー物語の理解の初期の段階として

第3節 教育現場での取り組み

第4節 理解の瞬間

第5節 まとめ

第5章 考察

第1節 「読み」の重要性

第2節 「読み」とITC技術の活用

おわりに

記録・引用・参考文献一覧

以上のように構成を設定したが、大まかな概要としては以下の通りである。

<目的と意義>

「盲ろう」という障害は、独自の障害であるにも関わらず、視覚障害・聴覚障害の程度を合算した障害と認知されがちである。しかしながら二重障害を併せ持つ事による困難は、数値だけでは測れない独自の困難を抱えている。その状態像は、視覚障害と聴覚障害の程度や状態が、どのように組み合わされているか、また起因する原因によっても多様な障害像を示している。

その中でも、筆者は生まれつき視力障害と聴力障害を併せ持つ、先天性盲ろう者であり、

現在24歳である。一般的に見えて聞こえる子ども達は、幼い頃におとぎ話をたくさん聴き、おとな達との関わりの中で、空想の世界をいつの間にか自然に受け入れていく、ところが、盲ろうの子ども達は、「なぜ魚のスイミーが話をするのか？」・「なぜドラえもんのポケットからどこへでも行けるのか？」のような非現実的な物事は受け入れにくい状態で、幼少期を過ごすことになる。筆者の子どもの頃も同様で、体感できて理屈で説明できる世界の理解は、右往左往しながらも、成長に伴い広がっていき、触手話・点字を中心にしたコミュニケーションも徐々に獲得していった。反面、体感できず理屈では説明出来ない空想の世界の理解は広がらず、教育現場・家庭で共有する課題として提起されていた。その後も、数々の支援が積み重ねられ、自身のみた「夢」をきっかけとして理解の瞬間を迎える。支援者らは「夢」の中身と「夢」の理解を利用して 次々にA児（筆者）に蓄積されていた疑問・不思議を説明し、解決していく事になる。

その時期からA児（筆者）の読書は変貌し、ハリーポッターに夢中になり、実際にホウキにまたがっても空を飛べないことを何度も確かめたりしながら、ファンタジー（fantasy）の理解を深めつつ、想像の楽しさも経験するようになる。

以上のような経緯から本論文では、先天性の盲ろうであるA児（筆者）が、非現実的な概念であるファンタジー（fantasy）を理解するにはどのような困難があり、どのようなプロセスで克服され、理解に至ったのかを論点にする。先天性盲ろう児が、おおよそ「触覚だけ」で教育と支援を受け、言語とコミュニケーション力を獲得し、高等教育を修了しようとしている事例は、我が国にとどまらず、世界的にも稀少であることから、論点から導き出された知見は、援助技術全般・教育現場での実践への応用性に優れていると思われる。また当事者でもある筆者が、自己の成長の過程で体験した様々な事象を事例的に研究するという稀な研究であり、非当事者には、言及し得ない情報を社会に提供するという意義は大きいと推測する。

#### <リサーチクエスチョン>

RQ① A児がファンタジーの理解に至るまでにはどのような困難があったのであろうか？

RQ② 困難をどのように乗り越え、どのような支援や援助が積み重ねられて理解に至ったのだろうか？

#### \*ファンタジー（fantasy）の定義

本研究ではファンタジーを、「幻想的・空想的な要素を題材とする物語」という、狭義の解釈だけでは本論文の目的を満たさない。また記録の中にはファンタジーという表現は数箇所しか記述しておらず、曖昧な表現が多いため、「非現実的な世界など、抽象的な思考を必要とする知識・理解などの総称」と定義した。

#### 5. 主な研究方法（文献研究に関して）

本研究では、二つのリサーチクエスチョンに基づき以下のような方法で研究をすすめた。

事象に対してあくまでも忠実かつ客観的事実に基づいたデータが抽出できるよう、過去の養育記録や教育記録と、これらに関わった人たちへのインタビュー調査で得たものを主要なデータとした。データの文脈を壊さないように配慮し、自己の体験・記憶・感情に関する記述は、最大限、次の資料と照合させる事とした。

その資料とは、

- ①インタビューの中で記録されたもの
- ②養育者と指導者の連絡帳、
- ③指導者・関係者による実践報告、
- ④手紙・日記、などである。

本研究では、A児の発達過程と教育歴を遡り、過程を細かく追跡する過程追跡法を選択

した。何が原因となってどのように影響を与えたのか、どのような過程を経て理解に至ったのかを時系列にまた包括的に考察でき、表裏の関係にある支援側からのデータと、当事者である自己の記憶・回想の照合により、正確な質的考察が可能である事、また、A児の誕生以降、我が国では、盲ろう児が、視覚・聴覚以外の障害を重複していない様相を示す事例は少なく、希少な障害児であったという希少性からもこの手法が単一事例研究には、適当であると判断した。

## 6. 主な研究方法（調査に関して）

5. のうちの①インタビューの中で記録されたものに関して、次の通りインタビュー調査を実施した。

◇調査の対象（回答箇所数、回収率等）：A児を担当した指導者（3名）及び支援者（3名）にインタビュー調査を実施し、口頭データをすべてメールにて回収した。

◇調査の方法：電子メールにて調査の趣旨を説明した上、インタビュー調査を実施した。

◇主な調査項目、主な質問項目（特に明らかにしたかった調査項目等）：A児のファンタジー理解にいたるプロセス（経緯）を明らかにするため、A児を担当した指導者には次の通り質問を実施した。

① 担当することになった当初のA児の印象について（課題など）

② ①の課題を考慮しての指導目標はどのようなものであったか（重点に置いたことなど）

③ A児に対する指導や配慮した事柄の中で、新たな試み（挑戦）を含め実践されたこと

④ ③で試みたことによって、A児はどのような変化を示し、何を積み重ねたのか、また、関係する支援者には、いくつかの事象について、事実確認を含め、具体的な質問を実施した。

◇主な調査結果の概要（この論文で最も言いたかったことについて）

・主な仮説についてはその検証結果：単一事例研究の為、仮説の設定はなし

・主な探索項目についてはその結果の概要：事例考察に必要な内容の返答はほぼ得られている。

・主な自由回答項目については回答の傾向：関係する指導者からの返答内容は、いずれも教育者という立場から、調査の趣旨を理解し、的確な表現で、総文字数5000字？に及ぶ返答が得られている。

◇用いた分析方法：質的研究として進めた。

## 7. 卒業論文の執筆全体を通して明らかになった論点、今後の課題等

<考察と結果>

① A児の本質的な困難は、4つの側面に集約され、独自性の高い障害であり、その困難は、ファンタジーの理解など2次的領域にも影響を及ぼす。それゆえ、指導・支援には専門性が要求され、早期から独自の方策・方略が必要である。

② A児がファンタジーを理解する過程に影響を及ぼした要因（要素）は、次の通りである。

1) 人材⇒A児には多くの指導者・支援者と前向きな家族が存在し、それらが新しい人との関わりを重視した事。

2) 時間的配慮⇒時間をかけて一からの指導と、繰り返すという地道な支援が計画的に行われた事。

3) 学習機会の確保⇒体験する・触る・学ぶなどの機会を多く導入し、家庭・放課後支援などでもその機会が確保された事。

4) 興味と関心⇒A児が興味・関心を示した瞬時を見逃さず、言葉の獲得・概念形成と結びつけていく取り組みが、一貫して行われた事。

5) 情報保障（提供）⇒A児の獲得した語彙を活用し、周囲の状況説明や情報を支援側が提供した事。

6) 適切な回答⇒A児からの質問・疑問にできるだけ答え続ける。その際、A児の発言に不足する部分を適切に補填する指導が行われていた事。

7) 共通目標の設定と情報共有⇒指導者・養育者・支援者との連携がとられ、共通目標の設定・情報の共有がなされ、幼児期から一貫してA児と関わり、時期ごとの指導者・養育者・支援者に的確な助言ができる研究者・教育者が存在した事。

③ファンタジーの理解に至る3つの条件は以下の通りであり、これらは相互に作用している。

1) 経験の積み重ね⇒体験させる、触れさせる、確かめさせるなどの機会をできるだけ多く取り入れ、感情面での経験も重視する事が条件になる。

2) 言葉の獲得⇒日本語に触れる機会とコミュニケーションをする場面の提供、新しい言葉や表現を教えるなど、国語の学習の中で意図的な取り組みが条件になる。

3) 概念の形成⇒A児の経験や獲得した語彙を活用して、抽象的概念の説明と、現実との関連付けが条件となる。

④上記のような要因と条件が揃う事で次のような好循環が発生する。

興味・関心の拡がり⇒疑問・不思議の発起「質問」「確認」「調べる」⇒理解の深まり⇒さらに興味と関心は拡がる⇒新たな疑問・不思議の発起「質問」「確認」「調べる」⇒理解の深まり⇒興味・関心の拡がり、このようなサイクルが繰り返されて、A児はファンタジーの理解に至った。

⑤成果と課題

ファンタジーの理解に至ったプロセスを総括すると、A児は結果として次のような成果が得られた。

1) 読書の変化と拡大

2) 想像力の発達

3) ICT技術を活用した、学習・コミュニケーションの拡大

## 8. 今回の卒業論文の執筆でやり残した点

前述した成果が、その後のA児の社会参加・アイデンティティの確立に繋がる事が示唆されるが、そのような青年期を対象とした考察は、筆者の今後の課題として残し、本研究を基礎にしながらICT技術の活用と情報保障支援を論点として今後取り組んでみたいと考える。

全般的に得られた記録、口頭データを記述するに留まり、考察が深められなかった点が心残りであり、まだまだ修正と加筆したい部分もある。

現在、引用したデータの解釈を含め、御協力頂いた方々へ最終の確認をしている段階であるが、相違する点の指摘、加えてアドバイスなども頂いている。

今回の最終報告と審査の後、機会が与えられるなら、より完成度の高いものを目指すために努力をしたいと考えています。

## 9. 執筆後の率直な感想。後輩への一言

本研究のように自己を研究対象とする事例研究は非常に少ないことから、多くの先生方に客観性の担保、妥当性という課題に関して相談しながら執筆を進めたが、予想以上に、具体的なアドバイスをいただくことになり、課題の整理と研究手法を摸索する時間が大半であったような気がします。

指導の中で、章立て・構成を暫定的に決めて取り掛かるとよいとのアドバイスから、自分の書きたいものをイメージしながら章立てを設定したが、先行論文などの様式や参考にした章立てにとらわれ過ぎて、文章を作ることさえできず、また書きたいことが書けないという時期もありました。

そのような状況の中で、指導教官から独創的な論文にしたほうが、目的に近づけるのではないかと的確な意見を頂き、書かねばならないという呪縛から、「書きたいこと」を書くという思考に変えた時から、作業は一気にすすみはじめました。模型作りのように、必要な部品をあつめる??部品の整理??組み立て??全体の出来具合やバランスを確認 … というようなイメージを持って臨みました。

後輩の皆さんには、

①「とにかく書きたいことを書け」と言いたい。問題意識が低いと妥協してしまうと思います。

②慣れない文章・語句・ルールにとられる事なく、下書きは自由に自分の言葉で書いてみる事をオススメします。

③指導教官とのコミュニケーションが、執筆の成否を分けると理解してほしいです。執筆中に、不出来な文章を親身に読んでくれるのは指導教官だけです。

最後に卒論を執筆するに当たり、私の本意を快く理解して執筆に御協力頂きました大学側には感謝しております。また優しく、時には厳しくご指導いただいた西原先生、山口先生をはじめとする多くの先生方には、私の在学中の成果として記憶に残していただければ幸いです。

言葉では、感謝しきれませんがありがとうございました。

<お問い合わせ先・卒業論文の送付を希望される方へ>

希望する方には郵送または手渡しにて卒業論文の本文を提供いたします。

紙媒体の他、視覚に障害がある方等にはテキストデータをお送りすることができます。

卒業論文の送付をご希望される方は、下記のメールアドレス宛に「お名前・住所・希望部数・テキストデータの有無」をお知らせください。

印刷等のためにお時間をいただくこともあるかも知れませんが、ご了承ください。

お問い合わせ先：atsushi-mori@ip.mirai.ne.jp

# ろう・難聴 アイデンティティ



平成31年2月16日(土)  
群馬大学公開講座  
「手話で語るろう者学」

川端 伸哉  
群馬大学 産学官連携研究員

@shinya\_kawada

## 「LGBTQ」

### 知っていますか？

@shinya\_kawada

## LGBTQ

### ゲイ Gay

男性だけど、  
男性が好きの人



@shinya\_kawada

## 今日の目的

- ・LGBTQとは？
- ・アイデンティティとは？
- ・ろう者のアイデンティティ
- ・ゲイのアイデンティティ
- ・ろう者のアイデンティティ
- ・ろうトランスジェンダーのアイデンティティ
- ・当事者支援のあり方

@shinya\_kawada

・セクシュアルマイノリティ

・性的少数者

とも言います。

今日は「LGBTQ」でお話しします。

@shinya\_kawada

## LGBTQ

### バイセクシュアル Bisexual

男性、女性  
どちらでも好きの人



@shinya\_kawada

## 川端 伸哉

1979年生まれ、群馬県伊勢崎市出身  
2001年 つくば国際大学産業社会学部卒業  
2014年 日本社会事業大学大学院  
社会福祉研究科博士前期課程 入学  
同年 Tokyo Deaf LGBT (bond) を設立  
2016年 日本社会事業大学大学院 修士  
研究テーマ：ろうLGBTの支援

～日本手話を通して～

日本初の日本手話論文を提出し、修了。  
現在、群馬大学 産学官連携研究員 非常勤講師  
また講演・手話指導・当事者相談等、  
幅広く、活動中。

@shinya\_kawada

## LGBTQ

### レズビアン Lesbian

女性だけど、  
女性が好きの人



@shinya\_kawada

## LGBTQ

### トランスジェンダー Transgender 性と性が一致しない人



@shinya\_kawada



## トランスジェンダー

MtF(エムティーエフ) 男<sup>♂</sup>女<sup>♀</sup>  
FtM(エフティーエム) 女<sup>♀</sup>男<sup>♂</sup>  
→性別を変えたい・変えた人

## Xジェンダー

→男性でもなく、女性でもない人

## トランスジェンダー

性同一性障害 (Gender Identity Disorder)

ICD-10(国際疾病分類)

1990年から約30年ぶり改訂  
精神疾患→性の健康に関連する状態

(Gender Incongruence)

ICD-11から「性別付合」(予定)

## LGBTQ

### ・クエスチョニング

### ・クワイア

(最近は当事者がポジティブに自称する言葉として使われている。LGBTのことをまとめてクワイアと呼ぶこともある。)

### ・パンセクシュアル(全性愛)

### ・アセクシュアル(無性愛)

### ・ノンセクシュアル(非性愛)

### ・インテグレーション

## ろう者とは? 難聴者とは?

それぞれ、コミュニケーション手段が違う。  
アイデンティティ(自己形成)する時期も違う。

### ※川端の場合※

生後6か月で失聴。

ろう学校(1歳〜)で口話教育を受ける。

手話は地域小学校に入ってから。

母の美家の隣にろう夫婦が住んでいたこと。

手話に触れる機会があった。

## 教育環境とアイデンティティ (岩田, 2005)

1. 聴覚障害児が自己の障害を認識し始める時期  
第一段階 補聴器等の外見的な違い  
第二段階 音声コミュニケーションの不都合

2. 聴覚障害のある高校生の状況

ろう学校、地域校ともに「聴者」「難聴者」  
「ろう者」としてのアイデンティティの帰属意識  
は考えた経験のないものが多い。

※ただし、家庭や学校での人間関係、進路選択  
等の心理的葛藤はある(コミュニティへの帰属意識として)

## アイデンティティとは?

### ・帰属性

なんらかの社会集団に所属し、そこに一体感を持つとともに、他の成員からも是認されている。

### ・斉一性

私は他の誰とも違う独自の存在であり続ける。

### ・時間的連続性・一貫性

過去、現在、そしてこれからもずっと私であり続ける。

## アイデンティティは生涯にわたるプロセス

その大半が無意識的な、生涯つづく発達過程である。

最初の自己承認=認識にまではるかにさかのぼることができる。

すでに何らかの形で相互的に承認=認識と結びついた自己実現とみなすべきものが含まれている。

(Erikson, 1959)

## ろう者のアイデンティティ (山口, 2001)

1. 混乱  
聴者の価値観に基づく教育の影響による。

2. 出会い  
聴覚障害学生団体や青年部などの出会い。

3. 異議申し立てと没頭  
自己の能力を試みる。自信を深めていく。

4. 統合

ろう者と聴者の両方の世界の関係ができていく。

## ろう同性愛者のコミュニティ (Zakarewsky, 1979)

1. カミングアウトの差異

2. 偏見、差別、虐待

3. 親が聴者 比較的に受容高い

4. 家族はろうであることの方が受容しやすい

5. 存在意識を社会参加へ

研究者も支援者も視野に入りにくい問題  
同じような問題が日本でも起きています。

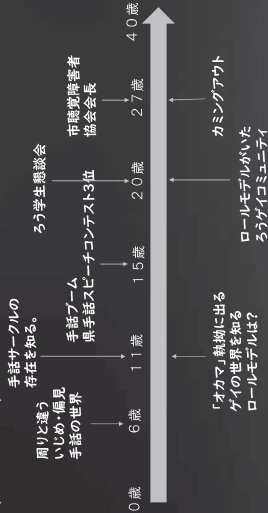
## アイデンティティの線的発達 (Cass, 1979)

1. 混乱
2. 比較検討
3. 許容
4. 受容
5. 自信、思い入れ
6. 統合

個人と環境との相互作用の中で獲得されていく。

©Troy Kaminari

## ろう者ゲイのアイデンティティ (川端, 考察中)



©Troy Kaminari

## ろうトランスジェンダーのアイデンティティ (川端, 考察中)

性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律 (2004年(平成16年)施行)

海外では1970年代から認められている。

幼少期、児童期に違和感  
学校の制服やランドセルの色  
アイデンティティはセクシャルリティが先に形成

©Troy Kaminari

## アイデンティティ形成過程 (Trolden, 1989)

1. 気づき
2. 混乱期
3. 想定、仮決め
4. 深く関与する視点

気づきの時期、時代背景、生活様式によって、一人ひとりの段階が違いため、支援も異なる。

©Troy Kaminari

## ろう者ゲイのアイデンティティ (川端, 考察中)

山口(2001)にあるように、ろう者のアイデンティティが最初に形成されれば、ゲイとしてのアイデンティティが形成していくだろう。

なぜならば、一つのアイデンティティができ、次のアイデンティティができることは容易い。仮に同時にアイデンティティ形成をすることは混乱と長期間の葛藤を招く恐れがある。

©Troy Kaminari

## まとめ

	聴者LGBT	ろうLGBT	ろう者
コミュニティ	たくさんある。排除されなくても、別のところへ行ける。	少ない。排除されると行き場がなくなる。生きづらい。	ある。趣味のクラブもある。
アイデンティティ形成	LGBTアイデンティティ形成に個人差はあるが、トランスジェンダーは発達段階で形成していく。	ろう者のアイデンティティが先。あとにLGBTのアイデンティティ形成。変容が早い。	ろう者のアイデンティティ形成は発達段階で形成していく。
環境	法整備はまだ、アイデンティティ形成に影響大。	法整備についてはまだあるが、LGBTは早いと認め、アイデンティティ形成に影響大。	法整備が充実している。アイデンティティ形成しやすい。

©Troy Kaminari

## ゲイのアイデンティティ (森山, 2010)

1. 差別・抑圧  
教科書「男らしく、女らしく」
2. 出会い  
コミュニティやオープンリーな人の出会い
3. カミングアウトの差異
4. 継続性・再帰性

コミュニティとの関わり  
90年代と今では関わりが変遷している。

©Troy Kaminari

## ろう者ゲイのアイデンティティ (川端, 考察中)

現時点での法律はない。

2019年2月14日  
一斉提訴

日本国憲法第24条第1項  
「婚姻は同性の合意のみに基づいて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない」

アイデンティティ形成に影響

©Troy Kaminari

## 当事者支援のあり方

(小宮, 1998 杉山, 2006 眞野, 2014 川端, 2016)

1. 自己受容の困難
2. 自己開示の困難
3. 自己イメージの困難 (小宮, 1998)
4. 事故回避の困難 (杉山, 2006)
5. 情報アクセスの困難
6. 修学上の困難
7. 相談場所の困難
8. 心身の安心・安全保証の困難 (眞野, 2014)
9. アウティングの困難
10. ろう文化の尊重の困難 (川端, 2016)

## 終わりに

セクシヤリテイの差異はあるが、ひとり一人の生き方はそれぞれであることがわかる。

また聞こえ方や手話の有無、環境によってコミュニケーションが違ふ。

固定概念にとらわれず、その人に合った対話を期待しています。

そして、新しい関わりが生まれることを願っています。

©2019 YAMADA

24

## 著作

川端 伸哉

©2019 YAMADA

## 平成30年度群馬大学公開講座(Bコース)アンケート結果表

講座名: 手話で学ぼう者学

回収率: 87.4% (受講者 87人, 回答者 76人)

### ○性別

男性	女性	無回答	合計
13人	58人	2人	73人
17.8%	79.5%	2.7%	100.0%

### ○年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答	合計
3人	10人	5人	20人	18人	13人	2人	2人	73人
4.1%	13.7%	6.8%	27.4%	24.7%	17.8%	2.7%	2.7%	100.0%

### ○過去の講座の受講の有無

あり	なし	無回答	合計
19人	43人	11人	73人
26.0%	58.9%	15.1%	100.0%

### 1. 講座を知った理由(複数回答可)

大学ホームページ	公開講座案内リーフレット	チラシ	勤務先(学生の場合は学校)	Facebook等のインターネット媒体	新聞紙等	知人等	その他	無回答	合計
8人	13人	18人	5人	14人	0人	20人	11人	1人	90人
8.9%	14.4%	20.0%	5.6%	15.6%	0.0%	22.2%	12.2%	1.1%	100.0%

#### チラシ: 配布場所

- 群馬大学内(3人)
- 手話サークル(2人)
- 群通研
- 全通研(徳島)機関誌「徳通研」として通信
- 通訳士協会
- 聴覚障害者協会
- ろう協
- 手話講座

#### Facebook等のインターネット媒体

- 金澤先生のFB

#### その他

- 川端講師より(3人)
- 手話サークル(5人)
- DM郵送(2人)
- PEPNet~JapanのML
- 認定講座を探していて偶然
- つるの会

### 2. 講座の理解度

理解できた	ある程度理解できた	理解できなかった	無回答	合計
28人	35人	3人	7人	73人
38.4%	47.9%	4.1%	9.6%	100.0%

#### ある程度理解できた理由

- 手話の読み取りがまだまだでした…。

#### 理解できなかった理由

- 手話が未熟。
- 手話の習熟が足りておらず、資料のおかげで少し理解できた。
- 手話の知識不足です。

### 3. 開催時期

適当である	その他	無回答	合計
60人	8人	5人	73人
82.2%	11.0%	6.8%	100.0%

#### その他

- 9月頃が良い(2人)
- 8月頃が良い(1人)
- ろう者関係のイベントと重ならないならいつでも良い
- 感染症の心配がない時期
- 7月頃が良い
- 5, 6月頃が良い
- 雪のない頃が良い
- 秋頃が良い

### 4. 講座の回数・時間

適当である	短い	長い	無回答	合計
55人	1人	8人	9人	73人
75.3%	1.4%	11.0%	12.3%	100.0%

#### 長い

- 1回3時間位が良い(2人)
- 3~4回1人1時間位が良い(2人)
- 2回3時間位が良い
- 2回が良い

### 5. 開催曜日

平日が良い	土曜が良い	日曜・祝日が良い	すべて	平日か土曜が良い	平日か日曜・祝日が良い	土曜・日曜・祝日が良い	無回答	合計
3人	34人	5人	5人	0人	0人	23人	3人	73人
4.1%	46.6%	6.8%	6.8%	0.0%	0.0%	31.5%	4.1%	100.0%

### 6. 開始時刻

適当である	その他	無回答	合計
60人	9人	4人	73人
82.2%	12.3%	5.5%	100.0%

#### その他

- 13時位が良い(5人)
- 13時半位が良い
- 午前中が良い
- 午後が良い

### 7. 交通手段(複数回答可)

自家用車	電車・バス	自転車・徒歩	その他	無回答	合計
52人	20人	0人	4人	0人	76人
68.4%	26.3%	0.0%	5.3%	0.0%	100.0%

#### 電車・バス

- 不便ですね…次回はシャトルバスを高崎or前橋駅からでも(^)

#### その他

- 飛行機(2人)
- 友人の車

## ○意見・感想・大学への要望等

- ・それぞれの講座の間の休憩が、20分あったのはよかった。大抵の研修会等では、10分（長くても15分）が多くてトイレにも行けないので、今回は本当によかった。
- ・アイデンティティとLGBTQは他にないテーマで、非常に勉強になった。
- ・森さんの卒論が興味深かった。先天性の盲ろう者がどのように事象を獲得するのかを知る良い機会でした。（盲ろう者について知る機会が少ないので。）
- ・貴学ならではのテーマ、開催方法ですばらしいと思います。また来年楽しみにしています。
- ・聴者にも話の内容が理解できるように、ゆっくり手話をしてほしい。手話上級者ばかりが来ているわけではないので。
- ・やはり当事者による講義は素晴らしいと思いました。個人的には、頂いたパンフレットにのっていた下島恭子氏のデフフリースクールやきらきらの話を聞きたいと心の底から感じました。が、昨年に引き続きろう研究者の発表の場としての役割は非常に大きいと思いますので、ぜひ今後も継続して行ってください。スクリーンが全体的に薄くて見づらかったです。手話が見えるようにすることが第一目的なのは承知していますが、ぜひともご配慮を！！
- ・スライドを手がかりに手話をよみとりました。まだまだ修業が必要です。個性あふれる手話が見られ学べて良かったです。
- ・森さんの講演のとき、スライドの調整が入り気になりました。文字の大きさやスライドを上げるタイミングや位置など、事前に決めておいてもらえたらよかった。
- ・とても良かったです。ありがとうございました。
- ・LGBTQのアイデンティティのお話・・・今まで知らなかった事が色々理解できよかったです。
- ・色々な方のお話を1回で、しかも手話で聴ける機会を頂けるのはとても嬉しいです。
- ・いろいろ新たな発見、学びがありました。ありがとうございました。
- ・本当にすばらしい講座だと思います。来年も来たいと思います。
- ・後の方は手話が見づらいので、見やすいように工夫してほしい。講演者が台に乗るなど、考えていただけるとうれしい。
- ・ありがとうございました。
- ・わかりやすく勉強になりました。ありがとうございました。遠隔で受講できたらありがたいです。（ストリーム配信など。）
- ・あえて読み取り通訳をつけないことが良かったと思います。手話ファーストな講座をまた期待します。ありがとうございました。
- ・今日は3人の方が各々違ったテーマで、いろいろな角度からの話が見られてよかったです。東京から参りましたが、ろう者の視点から、盲ろう者の視点からの考察は大変参考になりました。
- ・今回と同様の企画を、今後も是非継続してください。スタッフの皆様お疲れさまでした。ありがとうございました。
- ・森さんの講義を楽しみにして来ました。手話通訳を介さずに、3人の講義に参加できると知り、とても惹かれました。参加できてとてもよかったです。3講義とも内容濃く、ためになりました。（資料で、ゲイ、レズビアンの説明に「だけど」とあるのが気になる。「で」などにしてはどうか。）
- ・アイデンティティに関する事など、「そういう風にとらえたり考えることもできるんだ」と新しい考えを知ることができた。
- ・長い時間、手話と接することができて、普段の学生生活では中々できないことなので良い経験になりました。ありがとうございました。
- ・講話ありがとうございました。貴重な時間となりました。
- ・手話を習得して「ろう者になる」→「自分になる」と受け止めました。自分は「ろう」と思っても、周りから難聴と言われることにとまどいはありほっといたのですが、少し迷いはありました。アイデンティティは周りが決めるのではない、自分が決める一それが「ろう」であり、「自分」になることだとわかってよかったです。
- ・森さんの質疑応答の仕方は、参考になりました。参加者から直接に盲ろう者と話すのは、いい方法だと思いました。
- ・ろう視点からのアイデンティティやLGBTについて、アイデンティティ形成過程が大切だとわかりました。手話とLGBTの形成過程を話している川端さんはステキだと思いました。
- ・年長的に1時間半の講座を見続けるのは辛い。でも、普段学習出来ない内容の濃い講座だったので、嬉しかった。

## ○開設希望講座

- ・インテグレーション、人工内耳の当事者からの講演会
- ・公開講座を年2回くらいしてほしい。
- ・ろう教育の昔と今など
- ・先天性盲ろう者（児）に対するファンタジー～興味深く～又機会があれば是非！お願いしたい。
- ・次回はろう者の歴史とか、世界の「Deaf Community」とか聞けたらいいですね。
- ・ろう教育のヘンセン（昔と今の違いや問題点について）
- ・差別解消法について
- ・旧優生保護法の問題
- ・手話関係の講座があれば参加したいです。
- ・（私自身が中途失聴者なので）中途失聴者ならではの悩み、アイデンティティ困難の克服方法などが知りたい。

平成30年度 群馬大学公開講座

# 手話で学ぶろう者学



2015年に群馬県手話言語条例と前橋市手話言語条例が制定されました。県と市の両方で手話言語条例が制定されたのは全国初です。手話言語条例では手話を「独自の体系を持つ言語」と規定しており、その理解と普及を目的としています。また、群馬県手話言語条例では「手話に関する調査研究の推進」（第15条）も盛り込まれており、群馬大学としても、手話に関する学術的成果を発信していきたいと考え、本講座を企画しました。

本講座では、講師自らが手話で講義を行うことで、聾者自身が直接手話で学ぶ機会を提供します。

なお、本講座は日本財団助成事業「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」の一環として実施するものです。

実施責任者：教育学部障害児教育講座教授 **金澤 貴之**

2019年

**2月16日** 土

12:20~17:30【開場 11:50】

群馬大学荒牧キャンパス教育学部C棟204教室

〒371-8510 前橋市荒牧町4丁目2番地



前橋駅からバスが出ております。詳しくは群馬大学公式HPなどをご参照ください。

**対象者** 手話によるコミュニケーションが可能な人

**受講料** 無 料

**申込方法** 本学ホームページからお申込みください。

ファックス（裏面送付票）、Eメール、電話からもお申込みできます。  
（講座名、氏名(フリガナ)、年齢、性別、郵便番号、住所、職業、学校名等、電話番号、Eメールアドレス及び「平成31年度群馬大学公開講座」リーフレットの送付希望の有無」を明記してください。）

**問合せ先**

群馬大学 研究推進部 産学連携推進課 産学・地域連携係

TEL：027-220-7517（直通）

FAX：027-220-7515

Eメール：kouza@jimu.gunma-u.ac.jp

**申込期限** 1月28日（月）

**その他** 申込みで得た受講者の個人情報は、本学公開講座に関わる事務以外には、使用いたしません。

**託児について**

託児を希望される方は、件名に「公開講座託児所利用希望」と記載の上、下記のメールアドレスまでご連絡下さい。詳細については追ってご連絡いたします。  
E-mail: SLSDP@jimu.gunma-u.ac.jp  
(@jimu.gunma-u.ac.jpより連絡させていただきますので、受信できるようにドメイン設定をお願いします。)

群馬大学 公開講座

**検索** <http://www.gunma-u.ac.jp/research/res003/g1956>

事業についての  
問合せ先

手話サポーター養成プロジェクト室  
TEL.027-220-7157 FAX.027-220-7390



主催 国立大学法人 群馬大学  
共催 群馬県聴覚障害者連盟  
後援 群馬県、前橋市  
助成 日本財団  
<https://www.nippon-foundation.or.jp/>

# 群馬大学公開講座 「手話で学ぶ ろう者学」

## ■ 講義日程

日 程		講義内容	講 師
2月16日(土)	12:20 } 13:50	「アイデンティティ再構築から考える『ろう・難聴者のこころの健康』」	群馬大学 教育学部 研究員 <b>甲斐 更紗</b>
	14:10 } 15:40	「先天性盲ろう者がファンタジーを理解するためには？」	筑波技術大学大学院 技術科学研究科 <b>森 敦史</b>
	16:00 } 17:30	「ろう・難聴とLGBTの複合的アイデンティティ」	群馬大学 学生支援センター 産学官連携研究員 <b>川端 伸哉</b>

## FAX 送信票

お申込日 平成 年 月 日

### 群馬大学公開講座 「手話で学ぶ ろう者学」

【参加申込書】

ご住所	〒 -		
連絡先	TEL (昼間連絡のとれる番号)		
	E-mail	@	
参加者氏名 (フリガナ)		年 齢	性 別
			男 ・ 女
			男 ・ 女
			男 ・ 女
今後、群馬大学公開講座に関わる案内の送付を希望されますか？ (『平成31年度群馬大学公開講座』リーフレット等)		希望する ・ 希望しない	
託児利用 (無料)		有 ・ 無	

上記のとおり、群馬大学公開講座に申込みます。

FAX送信先：群馬大学 研究推進部 産学連携推進課 産学・地域連携係  
**FAX: 027-220-7515** 申込期限：1月28日(月)





「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」  
事業シンポジウム

---

2019年2月17日（日）開催

日時：2019年2月17日(日) 10:00～17:00

場所：国立大学法人群馬大学 荒牧キャンパス 教養教育 GB棟 155教室  
(群馬県前橋市荒牧町 4-2)

## 2018年度 日本財団助成「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業シンポジウム

### ～手話に関する教育施策と学術機関の関わり方～

#### <プログラム>

- 10:00～10:10 **開会挨拶**
- 10:10～11:10 **基調報告**  
金澤 貴之 (群馬大学 教育学部 障害児教育講座 教授)
- 11:10～11:50 **事業成果報告**  
下島 恭子 (群馬大学 大学教育・学生支援機構 学生支援センター 産学官連携研究員)  
能美 由希子 (群馬大学 大学教育・学生支援機構 学生支援センター 産学官連携研究員)
- 11:50～13:00 **昼食休憩 (70分)**
- 13:00～14:40 **行政説明**  
田中 太郎氏 (大阪府 福祉部 障がい福祉室 自立支援課 社会参加支援グループ長)  
上原 篤彦氏 (群馬県 教育委員会事務局 特別支援教育課長)
- 14:40～14:50 **休憩 (10分)**
- 14:50～16:50 **パネルディスカッション：「教育現場で求められる手話施策のあり方」**  
[ファシリテーター]  
二神 麗子 (群馬大学 大学教育・学生支援機構 学生支援センター 助教)  
[パネリスト]  
田中 太郎氏 (大阪府 福祉部 障がい福祉室 自立支援課 社会参加支援グループ長)  
西垣 正展氏 (滋賀県立聾話学校 教諭・学校心理士)  
上原 篤彦氏 (群馬県 教育委員会事務局 特別支援教育課長)  
金澤 貴之 (群馬大学 教育学部 障害児教育講座 教授)

#### <配付資料>

- ・ **基調報告**
  - 「手話通訳養成の課題と本事業が目指すもの」(金澤 貴之)
- ・ **事業成果報告**
  - 「大学の授業における語学学習としての手話学習プログラムの作成」(下島 恭子)
  - 「大学の授業としての手話通訳者養成プログラム～今年度の授業実践から～」(能美 由希子)
- ・ **行政説明**
  - 「手話言語条例に基づく施策 大阪府の事例」(田中 太郎氏)
  - 「手話言語条例に関わる教育施策 群馬県の事例」(上原 篤彦氏)
- ・ **パネルディスカッション**
  - 「ろう学校における手話施策の実際～ろう教員による取り組みの一例から～」(西垣 正展氏)
  - 「聾学校教員に求められる手話のスキルとは？ - 教員養成の観点から -」(金澤 貴之)
  - 「手話言語のあふれる「こめっこ」について」(田中 太郎氏)

※詳細については、「2018年度シンポジウム報告書」をご覧ください

Supported by  日本 THE NIPPON 日本財団 FOUNDATION

# 「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」 事業シンポジウム

【参加費】無料

手話に関する教育施策と学術機関の関わり方

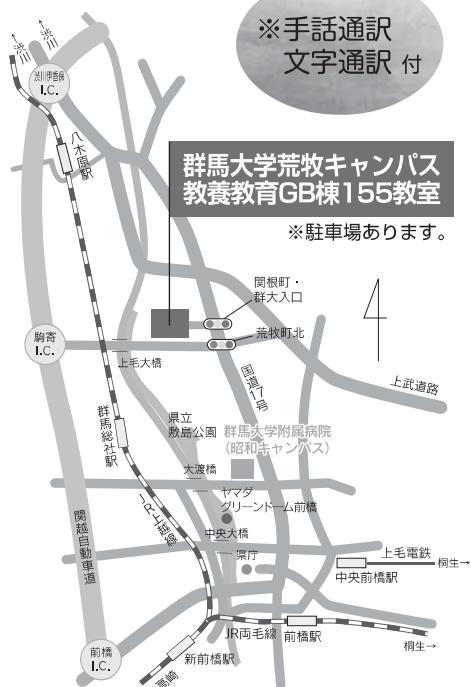
2019年

# 2月17日

10:00～17:00【開場9:30】

## 群馬大学荒牧キャンパス 教養教育GB棟155教室

〒371-8510 前橋市荒牧町4丁目2番地



※手話通訳  
文字通訳 付

群馬大学荒牧キャンパス  
教養教育GB棟155教室

※駐車場あります。

前橋駅からバスが出ております。詳しくは群馬大学公式HPなどをご参照ください。

## プログラム

「手話」を表現している  
ぐんまちゃん



10:00～  
10:10

開会挨拶

10:00～  
11:10

基調報告

金澤 貴之 (群馬大学教育学部障害児教育講座教授)

11:10～  
11:50

事業成果報告

- 「手話学習プログラムの作成(仮)」  
下島 恭子 (群馬大学大学教育・学生支援機構学生支援センター産学官連携研究員)
- 「大学の授業としての手話通訳者養成プログラムの試案(仮)」  
能美由希子 (群馬大学大学教育・学生支援機構学生支援センター産学官連携研究員)

昼食休憩 (70分)

13:00～  
14:40

行政説明

- 「手話言語条例に基づく施策 大阪府の事例」  
田中 太郎氏 (大阪府福祉部障がい福祉室自立支援課社会参加支援グループ長)
- 「手話言語条例に関わる教育施策 群馬県の事例」  
上原 篤彦氏 (群馬県教育委員会事務局特別支援教育課課長)

休憩 (10分)

14:50～  
16:50

パネルディスカッション

「教育現場で求められる手話施策のあり方」

- ・ファシリテーター：二神 麗子 (群馬大学大学教育・学生支援機構学生支援センター助教)
- ・パネリスト：田中 太郎氏 (大阪府福祉部障がい福祉室自立支援課社会参加支援グループ長)
- 西垣 正展氏 (滋賀県立聾話学校教諭・学校心理士)
- 上原 篤彦氏 (群馬県教育委員会事務局特別支援教育課課長)
- 金澤 貴之 (群馬大学教育学部障害児教育講座教授)

16:50～  
17:00

閉会挨拶

### 【申込方法】

ホームページからのお申込みをお願いいたします。  
<https://goo.gl/hUR3ad>  
ホームページからのお申込みが難しい場合は、FAX(裏面送信票)にてお申込み下さい。



### 【託児について】

当日は臨時的託児所(無料)を開設いたします。ご利用希望の方につきましては、申込みの際に託児利用希望欄へチェックをしてお申込みをお願いいたします。詳細については後日ご連絡いたします。  
(@jimu.gunma-u.ac.jpより連絡させていただきますので、受信できるようドメイン設定をお願いします。)

【申込期限】 1月28日(月)

問合せ先

手話サポーター養成プロジェクト室  
TEL.027-220-7157 FAX.027-220-7390  
MAIL.SLSDP@jimu.gunma-u.ac.jp



主催 国立大学法人 群馬大学

共催 群馬県

後援 群馬県聴覚障害者連盟

助成 日本財団

# 「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業 2018年度 シンポジウム

ホームページからのお申込みはこちら⇒ <https://goo.gl/hUR3ad>  
FAXでのお申込みは、下記FAX送信票をご利用下さい。

## FAX 送信票

お申込日 年 月 日

### 「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業 2018年度 シンポジウム 【参加申込書】

ご住所	〒 -	
連絡先	TEL または FAX	
	E-mail	@
参加者氏名 (フリガナ)		職 業 (もしくは所属)
託児利用 (無料)		有 ・ 無

上記のとおり、「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業  
2018年度シンポジウムに申込みます。

FAX 送信先：群馬大学手話サポーター養成プロジェクト室  
FAX：027-220-7390 申込期限：1月28日(月)